

声の仏念

編集・発行：「御同朋の社会をめざす運動」岐阜教区委員会広報部
〒500-8882 岐阜市西野町3丁目1 電話 (058) 262-0231 FAX (058) 263-7353
http://www.hongwanji-gifubetsuin.jp/ E-mail:info@hongwanji-gifubetsuin.jp

2014(平成26年) 11月1日発行 vol.235



如燈風中



岐阜教区教務所長
御同朋の社会をめざす運動
岐阜教区委員会委員長
河村 信昭

河村 信昭

平成二十六年十月十日午前十一時より、本堂修復に向けた閉扉式が行われました。また新しい教化センター・香光殿の竣工式も修行されました。その新築となった香光殿研修室で、新たな第二十五代専如ご門主のご消息（ご門徒の皆様に向けたお手紙）の発布式が総局により執り行われ、その趣旨「自信教人信」のもと宗門の英知を結集しご法義を次代に伝え、御同朋の社会をめざして行きたい旨が演達されました。

第二十五代専如ご門主が法灯を継承したということは、本願寺という大きなお寺を継承したのではなく、宗祖親鸞聖人がお示しになられた本願念仏のご法義を継承し、護り後世に伝えて行く先頭にたれたということです。ご法義の灯は、親鸞聖人以来現在に至るまで連綿と受け継がれ、お念仏に生きる人々を照らし、えることがないほど私たちの在所まで赴かれお念仏の灯火を燈してくださいました。前門様も三十余年かけ全国をご巡教され、ご法義を護られたことであります。

本願念仏のご法義は時代や社会が変化しても変わることはありませんが、ご法義の伝え方は、社会の変化につれ変わっていくかなければなりません。前の香光殿は、皆様もご承知のように本山の布教と聞法の道場であった総会所の建物を昭和三十四（一九五九）年に私たちの先人がご本山より譲り受け、岐阜のご法義の中心として残してくださいました。今般新たになった教化センター「香光殿」は、受け継ぐべき伝統を確かめ、創造的な活動を育てていく時代に即応するもので、宗祖の願われた「御同朋のために、お念仏ころにいらして申して、世の中安穩なれ、仏法ひろまれ」を受け継ぐものであります。宗祖のお心をいただき、自らがお念仏に遇い得た喜びを多くの方々や次代へ繋ぎ、広めることが私たちの責務です。さあ愈々本堂の修復が始まります。皆様と共に極楽浄土の莊嚴を子どもたちに孫たちに伝え残していきましょう。

新香光殿完成 竣工式行われる

昨年十一月から建設工事が始まった新香光殿が九月末に完成し、引き渡しが行われました。

新香光殿は延床面積一〇〇㎡の鉄骨造平屋建てで、各種法要や会合に対応出来るよう、研修室と会議室を備えています。また、事務所も全て新香光殿へ移動し、別院・教務所の事務を円滑に進める事の出来る現代に即した建物として完成いたしました。

十月十日(金)には本堂修復工事起工式に引き続き、新香光殿 研修室にて竣工式が行われました。



法要では各組代表者出勤のもと讃佛偈のお勤めにて厳修致しました。法要後には河村信昭岐阜別院輪番・岐阜教区教務所長挨拶に引き続き、藤野堯文浄土真宗本願寺派総務より祝辞をいただき、その後横山善道法要委員会委員長より長期計画完遂にむけて更なるご協力を賜りたいとのご挨拶をいただきました。

その後物品進納の披露、引き続きご列席の皆様へ焼香をしていただき賑々しく終了いたしました。

香光殿正面玄関



事務所

施設紹介

会議室



研修室

本堂 修復工事

起工式行われる



十月十日(金)午前十一時より岐阜別院本堂において、十二礼のお勤めにて本堂修復工事に伴う起工式を各組代表者の出勤のもと厳修致しました。教区内の各役職者・教化団体関係者・岐阜別院門徒等の一五〇名を超える多くの参拝者の中、賑々しくお勤めされ本堂が閉扉されました。

本願寺岐阜別院は、慶長八(一六〇三)年本願寺第十二代准如上人が美濃地方をご巡教された時、一柳直末(ひとつやなぎ)なおすこはじめ多くの門徒が、九間四面の本堂を建て、お念仏の道場とされたことに始まります。それ以来、浄土真宗のみ教えを伝える中心道場として多くの役割をはたしてきました。



昭和二十年七月九日の岐阜空襲で本堂が焼失した時も、僧侶・門信徒が一体となり、延べ四五〇〇名を超える門信徒の方々の基礎工事の奉仕や、浄財の喜捨、建築用材の上納などにより再建されました。

この度は、再建より六十有余年がたち、瓦の割れや梁や垂木が折れ屋根が下がってきたため、破損箇所等の取替、耐震補強の為の工事、本堂内陣の極彩色を順次行ってまいります。

また、本堂修復工事に伴い屋根瓦の葺き替えをおこないます。つきましては、岐阜教区内外の僧侶や門信徒、有縁の方々に瓦懇志のお願いをしております。皆様のご協力をお願い致します。

詳細につきましては、同封のチラシをご覧ください。

また懇志の進納方法につきましては、ご住職とご相談ください。

工事期間中は、新たに完成いたしました新香光殿を仮本堂とし、各法要をお勤めいたします。



◆総事業予算 6億2,716万7,000円

●崇敬寺院門徒懇志

総予算	2億6,544万7,000円	
現在	1億7,156万円	達成率 64.6%

●崇敬寺院住職懇志

総予算	1,350万円	
現在	925万円	達成率 68.5%

●崇敬寺院衆徒懇志

総予算	1,322万円	
現在	898万円	達成率 67.9%

●崇敬寺院院号懇志

総予算	2億6,200万円	
現在	1億3,665万円	達成率 52.2%

●崇敬寺院特別懇志

総予算	1,000万円	
現在	3,062万4,956円	達成率 306.2%

●別院門徒懇志

総予算	6,300万円	
現在	6,318万8,853円	達成率 100.3%

御進納ありがとうございました
(2014(平成26)年10月24日現在)

永代経(院号)懇志進納者

永代経開闢法要を お勤めしました。

岐阜別院に永代経(院号)懇志を納めていただいた方の永代経開闢法要を、九月二十二日(月)～二十四日(水)の秋季彼岸会に併せて、岐阜別院本堂にてお勤めしました。余間には法名軸を掲げ、河村輪番の導師のもと、賑々しくお勤め致しました。

お勤め後は、橋行信師(岐阜教区中川北組圓勝寺)よりご法話をいただき、三日間合計で五十三名の参拝でした。

次回の開闢法要は、春季彼岸会(三月二十日～二十一日)に厳修致します。

今後も永代経(院号)懇志をご進納いただきますようお願い致します。





「手を合わせ、 お念仏申す人になってもらいたい」

「お寺を子どもの居場所に」をテーマに
といただきまして、平成十九年より取り
組まれてきました、キッズサンガ、宗祖
親鸞聖人750回大遠忌法要までに、我
が岐阜教区に於かれましては、9割のお
寺で活動をいただくことができました。

サマースクール、夏のお泊り会といっ
た子どもたちの夏休み期間中に、小中学
生を中心とした活動、行事をもつことに
主軸を置いて取り組んでまいりました。

教区内、14組が同じような歩みができ
ているわけはありませんが、地域の特
性や各寺院の状況を考慮に入れながら運
動展開をいただき、キッズサンガが浸透
してきたことであります、「新たな始まり」
への兆しが見えてきたことが、大いなる
評価できることであります。

それは各組・各寺院で、子どもたちと
ともに在るには、どのようなことができ
るのかと探り、教化活動について情報・
意見交換がなされたからです。

基幹運動の目指す「開かれたお寺」への
大きな一歩と言えるのが、キッズサンガ

推進の中で行うことができたことも評価
に値するものと考えています。

実施寺院からも「ご門徒と一体化した寺
院活動が可能になった」など、好意的に受
け止めてくださっている声が多く寄せら
れてもいます。

引き続きキッズサンガ運動(ご縁づく
り)を継続的に推進していくための具体例
を含めた方向性と理念が、「キッズサンガ
とは」「3つのかたち」「3つの視点」と整
理され、ご提示いただきました。



「3つのかたち」

1、日常生活で

生活の中で、「手を合わす」ことが自然に身につくように、各ご家庭へご本尊をおむかえいただくことの推奨、日々のおつとめ、食前食後のことば、いただきものをお仏壇にお供えする、家庭での仏事(法事)へお参りすることを奨励するといった、これまで家庭やお寺でなされてきたことを見直し、大切にしていきたいと思います。

2、法務・法要などで

ご仏事やご葬儀は、お参りする子どもにとっては、非日常的な経験であることです。そのような場で子どもたちが受けるお仏事や僧侶、法話への印象は、考える以上に子どもたちの心に響くことがあります。

子どもにも配慮した法話の用意をしたり、報恩講など各法要にお参りしやすいようにいたしましょう。

3、子どもに特化した催しなどで

「初参式」「はなまつり」「サマースクール」「子ども報恩講」「お経教室」など子どもたちを中心とした行事を催すことで、門信徒や地域の方、親世代から年配者にいたる様々なご縁ある人たちと、ともに阿弥陀さまのご縁に会いましょう。

「3つの視点」

1、「子どもの今に、み教えを」

子どもの置かれている現状を学びつつ、ご縁づくりをします。

2、「お寺を本来のすがたに」

ご縁づくり活動を通して、世代を超えて集えるお寺をめざします。

3、「お寺どうしが力を合わせて」

地域のお寺が協力し合いながら、ご縁づくりをします。「3つのかたち」に示した取り組み(1. 日常生活でのご縁づくり、2. 平素の法務、法要、行事でのご縁づくり、3. 子どもに特化した集いでのご縁づくり)も、一寺院だけで単発的に行われたならば、組という地域全体の動きにはなりません。組のそれぞれの寺院全体で行われることによって、お念仏の薫る風土がその地域全体にゆきわたっていきます。

こういった土徳は、決して一寺院だけの活動の成果ではないはずで。改めて、組内のお寺どうしが力を合わせ、組をあげて子どもにみ教えを伝えるキッズサンガに仕組み、お寺本来の姿をめざしましょう。

「キッズサンガとは」

『ご縁のある大人たちが

すべての子どもと接点を持ち

子どもとともに

阿弥陀さまの

ご縁に遇っていきつとる運動』

キッズサンガには、子どもとともに阿弥陀さまの願いを聞いていくことのできる場、としてのお寺になっていくことを願いが込められています。

かつては、阿弥陀さまに出会うご縁の多くは家庭によってもたらされてきました。しかし現代家庭の多くは「核家族」を通り越し「家族の孤別化」に至りつつあり、伝承が困難な状況にあります。それに加え、メディアなどによる大量の情報におぼれ、不確かなものを宗教と受け取ってしまうかねない状況でもあります。

人々との繋がりが希薄になり、やり場のない程の孤立感、悩みや不安を抱えている子どもや若者に、「ひとりでないよ」「阿弥陀さまが一緒にいてくださっているよ」「お寺は君がいていい場所だよ」の阿弥陀さまに出会えるご縁(環境)を、持つことで、本当の意味でのサンガ(仏法をよるこぶ者の集まり)をめざしたいところです。



見えぬものが見えてくる世界 「親の心子知らず」

『親という字を崩してみれば、木の上に立って見る』と書くと、親の心についてなるほど思えるお話を以前お説教で聞かせていただきました。木の上の高いところから、わが子供の姿をよく知り見守るとの親の心を表した漢字なのです。今でも思い出す有り難い御縁でした。

もうかれこれ四十年前の、私の高校三年生の修学旅行での話です。四泊五日九州の旅、帰りのフェリーでの出来事でした。もうすぐ港に到着する頃デッキから港を見ていたら、見覚えのある顔が目に入りました。よくよく見ればそれは父親でした。父親を知っている友達もおり、誰とはなしに、「下にいるあのおっちゃん達朗のお父ちゃんと違うか。そやそやお父ちゃんやでー。」修学旅行の行程表は母親に渡しましたが、まさか父が、帰りの日時など知らないと思っていたので、驚きと恥ずかしさで嫌な気分でした。到着し、タラップを降り父親の前を通り、一目散にバスに乗り込みました。父親は何も言わずニコニコして私を迎えてくれていま

した。たったこれだけのためにわざわざ、しかも、全生徒の中でただ一人、親が出迎えて来ていたのです。本当なら素直に喜び、無事に帰って来られたことを感謝して父親に、「只今。楽しかったよー。」と言わなければいけなかったのに……。

四十年が過ぎ、私も父親と成らせて頂き、少しは親の気持ちも分かって貰える様になりましたが、またつくづく親の心子知らずでありましたと思えるのです。

親鸞聖人は、浄土和讃(勢至讃)に

『子の母をおもふがごとくにて

衆生仏を憶すれば

現前如来とほからず

如来を拝見うたがはず』

(註釈版P577)と述べられています。子供が母親のことを想う様に、我々が阿弥陀様を憶えば、この世、または浄土において、阿弥陀様を拝見させて頂けることは疑いありません。この阿弥陀様とは、色も形もましまさぬ仏様のこと、本来なかなか見ることでできない仏様に会わせて頂けると味わえる御和讃です。

人生経験を経ていく中でいろいろな体験を通して、見えぬものを見、気づかぬものに気づいていくことができているのです。目に見えない親の心。想いに気づかされるとき、いよいよ、「親の心子知らず」でありましたとわかり、お粗末な私でありましたと知らされてくるのです。即ち親の想いが分かるとき、そのまま親の心子知らずと気づくのです。決してこのことは別々ではなく、同時に知らされるのです。

阿弥陀如来様が、私に向かって必ず救い仏にさせると誓ってくださるその時、もうすでに阿弥陀如来様の御手の中に撰め取られて救いの中にあります。仏になるべき身としてこの娑婆世界を生き、たった一度の人生を明るく楽しく送り続けたいものです。阿弥陀如来の喚び声に、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と申せる日暮らしをしたいものです。

合掌

損斐組長寶寺住職

本願寺派布教使

筑間 達朗

問われる宗教の 公共性と社会貢献

御同朋の社会をめざす運動(実践運動)の基本理念は、『宗制』の「本宗門は、その教えによって、本願名号を聞信し念仏する人々の同朋教団であり、あらゆる人々に阿弥陀如来の知恵と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」に由来していることは周知のことです。またそれは、「基幹運動」の成果と課題をも継承している運動です。

私たちの教団が社会貢献を標榜するまでもなく、宗教もしくは宗教団体に「公共性」や「社会貢献」が求められる風潮はかなり前からありました。ある意味で東日本大震災以降、それは決定的なものになったと感じられます。様々な宗教団体が実施する震災等への災害支援は、もうすでに当たり前の事柄であって、それをなし得ない宗教団体は社会的認知が得られないという事かもしれません。

ただ、ひとくちに社会貢献といっても、その領域は様々なものがあります。例えば①緊急災害時救援活動、②発展途上国

支援活動、③人権・多文化共生・平和運動・宗教間対話、④環境への取り組み、⑤地域での奉仕活動、⑥医療・福祉活動、⑦教育・文化振興・人材育成、⑧宗教儀礼・行為・救済、等々です。これらを概観すると、強く社会性を帯びた活動から、宗教本来の持つ独自の活動まですべてが社会貢献の領域ということになります。

わが本願寺教団は、社会貢献に寄与すべく多くの関連団体を持っています。一般財団法人同和教育振興会・同朋センター、特別養護老人ホームビハラ本願寺、あそかビハラ病院、京都自死・自殺相談センター、NPO法人JIPPO等があります。福祉・教育活動においては古くから保育連盟があり、宗門関係学校は龍谷総合学園として連携をはかっています。そして総合研究所には「いのちと念仏」相談センターが設置されています。

昨今、宗教における社会貢献論の中で個々のお寺について、地域社会に存在するお寺はそれ自体が社会関係資本であると再定義されています。つまり昔からお寺は、青少年の遊びや文化空間であったり、コミュニティセンターであったり、精神的癒しや救いの場として存在してきました。そのかけがえのなさを再認識し

ましようという動きです。

再び、御同朋の社会をめざす運動(実践運動)に目を移して、現在の個々のお寺や組の活動を眺めてみますと、その実践課題は多岐にわたり、運動が細分化されて推進されていると思います。しかしながら浄土真宗という独自性に立ち返る時、私たち念仏者は、ご本願に生かされる人生を歩むことが、そのまま大いなる社会貢献になっている事を忘れてはなりません。何故なら、「念仏は無碍の一道」であり、安穩なる世をめざしているからです。しっかり聴聞を重ね、お念仏申させていただきましょう。私たちが社会的に為すべき事柄は其中で自ずと培われると信じています。

西濃南組 縁覚寺
楠 眞

(御同朋の社会をめざす運動)
教区委員会副委員長

「総局巡回」開催報告



六月六日に法統を継承された専如御門主様の「御消息披露式典」、並びに御同朋の社会をめざす運動(実践運動)の推進を目的とした「公聴会」が十月十日(金)の午後、新香光殿研修室にて開催された。

宗務所から、藤野堯文総務、丘山願海総合研究所副所長、小椋智之所務部長、中井真人所務部課長の出席を得て、教区からは宗会議員、教区会議員、正副

組長、「御同朋の社会をめざす運動」教区と組の正副委員長、教化団体役職者をはじめ、六九名が参加した。

「御消息披露式典」では藤野堯文総務より専如御門主様の法統継承に際しての消息を披露・趣旨演達をいただき、続いて本願寺派布教使 筑間達朗氏(岐阜教区揖斐組長寶寺)より特命布教をいただいた。

その後「公聴会」では、実践運動の推進と、伝灯奉告法要に向けた(仮称)宗門総合振興計画」大綱の策定についての報告があった。

実践運動については、七月の中央委員会での協議を踏まえた「骨子案」をもとに意見交換がなされた。参加者からは「前園城義孝総長在任中に作成された「骨子案」ではあるが、是非石上智康新総長の文言を織り込んでいただきたい」といった意見があった。

また、大綱策定に関しては「親鸞聖人七五〇回大遠忌を記念して刊行された『拝読 浄土真宗のみ教え』の普及を徹底しては」といった意見があった。

最後に藤野堯文総務が総括され閉会した。

お知らせ

岐阜別院

『報恩講法要』のご案内

十二月四日(木)

日中法要 午前十時より

連夜法要 午後一時より

十二月五日(金)

日中法要 午前十時より

連夜法要 午後一時より

初夜法要 午後七時より

十二月六日(土)

日中法要 午前十時より

講師 滋賀教区蒲生上組浄光寺

本願寺派布教使

藤澤信照師

報恩講『聞法のつどい』

十二月六日(土)

報恩講日中引き続き

講師 飛騨組神通寺

本願寺派布教使

朝戸臣統師

・華陽組願照師

本願寺派布教使

巖后範之師

・本年度報恩講法要講師

藤澤信照師

皆様お誘い合わせのうえ
お参りください

編集後記

グループマップの航空写真で岐阜市街を俯瞰すると、西別院の存在感が実感できます。空襲に遭いながらよく広い境内を戦後も保ち得たものと。研修施設と教務所の機能を併せ持つ新香光殿が竣工供用され、また本堂修復工事の起工式も行われました。遠からず本願寺岐阜別院のリフレッシュした姿を仰ぎ見ることができそうです。「御坊さん」と親しまれてきた岐阜別院を立派な姿で次代へ伝えることは、宗門のみならず地域に対しても意義ある大切なことでもあります。

合掌

「東日本大震災支援金」宗派受付窓口

郵便振替

〇一〇六〇一八一〇〇

加入者名

浄土真宗本願寺派 宗務所

通信欄に「東日本大震災支援金」とご記入ください

「広島市8・20豪雨災害義援金」受付窓口

郵便振替

〇一三二〇一八一二五〇〇三

加入者名

安芸教区災害対策委員会

通信欄に「広島市8・20豪雨災害義援金」とご記入ください